



沖浜シーズン認定こども園の「赤ちゃん食堂」。こども園の管理栄養士が各テーブルを回り離乳食のアドバイスや質問に答える

離乳食期の親子を支え、見守る「赤ちゃん食堂」

特定非営利活動法人 徳島の子育てに伴走する会マチノワ
社会福祉法人悠林舎 シーズ認定こども園 沖浜・田宮

二人の思いの輪がつながる

「赤ちゃん食堂」は、マチノワの理事長、白桃さと美さんと、沖浜シーズン認定こども園の園長、林弘祥さんとの出会いから始まりました。

マチノワでは、白桃さん自身の産後うつの経験や、離乳食期の親は子育ての負担・不安感が強く孤独を感じやすいというアンケート結果から、親の負担軽減・孤立防止を目指す「赤ちゃん食堂」を計画。一緒に運営してくれる協力者を探していました。

そのころ林さんも、こども園として地域に貢献できる方法を探していました。白桃さんから「妊婦・親子・地域がつながる事業計画」の大きな柱として「赤ちゃん食堂」を実現したいという話を聞き、その趣旨に賛同しました。

この二人の思いが重なって「赤ちゃん食堂」実現に向け、マチノワとシーズン認定こども園との連携は2023年12月に始まりました。

その後、林さんは、マチノワとの話し合いを重ね、職員にも趣旨を説明し、こども園の事業計画に「赤ちゃん食堂」を追加。給食室で離乳食を作る準備や、親子を迎える職員の体制づくりを行いました。

そして、第1回の「赤ちゃん食堂」を沖浜シーズン認定こども園で2024年6月に開催。次に田宮シーズン認定こども園の順番で、2か月に1回の開催を続けました。今年度からは、毎月開催しています。（詳しくはシーズン認定こども園のインスタグラムから確認できます）

こども園ならではのサポート

「赤ちゃん食堂」は、離乳食中期、後期の赤ちゃんと、その親を対象に、こども園の給食室で調理された離乳食と保護者用の食事を無料で提供。会場では、こども園の保育士が親子に寄り添い、ゆっくりと食事ができるようにサポートします。管理栄養士や看護師も同席し、離乳食をどれくらい食べさせ



マチノワ理事長 白桃さと美さん(左)
沖浜シーズン認定こども園 園長 林弘祥さん

れば良いか、食べてくれないときの味つけなどの相談にも対応して、育児不安の解消にも取り組んでいます。また、参加者同士で気軽に共通の話題や、悩みを話し合えるように、自己紹介や、子ども自慢などをしてもらい、和やかな雰囲気の中で食事を楽しむことができます。

▶「赤ちゃん食堂」事業は、2024年度WAM助成(独立行政法人福祉医療機構)を受けて実施しています。



田宮シーズ認定こども園の保育士(左)による食事サポート



「赤ちゃん食堂」に参加した親子(前列)と
沖浜シーズ認定こども園の保育士、管理栄養士、看護師、マチノワのスタッフ

参加者のみなさんに「赤ちゃん食堂」を訪れた理由を尋ねると「こども園で出される後期の離乳食を知りたかった」「離乳食を食べてくれない」「ゆっくりと食事を取りたいから」など、離乳食期の育児不安や、体力的な負担があるからと言います。

参加後に話を聞くと「ネットでは分からない離乳食の味つけの工夫や、量、柔らかさを確かめることができた」「同じくらいの月齢の赤ちゃんのお母さんと、復職時期の相談ができた」「保育士さんのサポートで、親子で安心して食事ができた」など、子育ての負担や不安の解消につながったと、明るい表情が印象的でした。

ベスト育児制度賞を受賞

そして、マチノワとシーズ認定こども園の連携による「赤ちゃん食堂」は、一般社団法人日本子育て制度機構による「2024年度ベスト育児制度賞 孤立・困難抑止部門賞」を受賞しました。

各メディアで「赤ちゃん食堂」の取り組みが紹介され、林さんは「県内のこども園関係者から「赤ちゃん食堂」についての問い合わせがありました。これをきっかけに、たくさんのごども園に広がって、みんなで産後の子育てを応援していきたいです」と力を込めます。加えて「赤ちゃん食堂」の経験を生かし、未

就園児への園開放の際、在宅で子育て中の親子に給食を無料で提供する「わんぱくランチ」も園独自に実施しています。

白桃さんは「シーズ認定こども園のみなさんと、日ごろからマチノワの活動を応援して下さる多くの方々のおかげで受賞することができました。こども園の給食室でつくる栄養満点の温かいごはんを親子で一緒に食べながら、管理栄養士さんや、保育士さんがそばにいて、誰かに

頼ったり、参加者同士で笑い合ったり。「一人じゃない」と実感できる居場所として『こんな場所が欲しかった』と保護者から言ってもらえるたびに、この活動を続けてよかったと思います」と、受賞の喜びを話します。



2025年5月22日に大阪府男女共同参画センターで行われた受賞式

東部防災館おきのすインドアパーク内の「マチノワみんなのお茶の間」でも、6月28日に「マチノワ赤ちゃん食堂」を開催。弁当販売店や、助産師と連携して、ベビーフードと、お弁当を無料配布しました。次回は8月23日(土)の予定です。(詳しくはマチノワのInstagramから確認できます)

シーズ認定こども園や、子育て支援関係者、行政、地域とつながりながら、妊娠や出産、子育て中でも笑顔になれる環境づくりに取り組むマチノワ。

白桃さんは「今後もマチノワの活動を応援していただくと、とても心強いです」と、新たなチャレンジに向け意欲を燃やしています。



machinowa

▶特定非営利活動法人徳島の子育てに伴走する会マチノワは「親も、地域も、育ちあう」ことを理念に掲げ、徳島の子育て環境を豊かにするための活動を続けています。主な活動は、妊娠・出産・育児における支援や相談、孤独を抱えやすい家庭への伴走サポートです。若者がボランティアとして居場所を訪れることで、多世代交流を図り、地域のつながりの輪を広げています。

●シーズ認定こども園 沖浜・田宮
赤ちゃん食堂のお知らせはInstagramより各月の「わんぱくだより」をご覧ください



●特定非営利活動法人 徳島の子育てに伴走する会マチノワ



東部防災館おきのすインドアパークでのマチノワ赤ちゃん食堂

